

# Hawaii Wedding Story

一生に一度の大切なハワイ物語

憧れのハワイ挙式を『ファーストウェディング』で実現されたふたりの、実話エピソードをお届けします。  
第13回は、限られた日程の中、存分に挙式を楽しんだ高石さんの物語です。

Text : Michiko Honda Photo : PAKKAI

Vol. 13

## 「特別な5日間」

出会ったのは大学時代。彼女とは、学年も学部も、サークルも違うからなかなか話す機会がなかったけれど、文化祭で見かけて話してみたいと思っていた。たまたま彼女の学部と、自分が入っていたフットサルサークルの歓迎会が重なったときに、共通の友人を通して知り合うことができた。その時は、ひと言くらいしか話せなかったけど、見た目のまま、まっすぐな子だなと思った。

彼のことは、学食でよく見かけて気になる存在だった。歓迎会の日に偶然にも出会うことができ、連絡先を交換。後日デートに誘ってくれて、仲良くなった。最初はクールな人に

見えてドキドキしたけど、実際は話しやすく、優しい人で嬉しかった。

デートを重ねて約3カ月。彼女のいつも優しく、そして真面目なところに惹かれて告白し、付き合いはじめた。実は、この時からすでに結婚を考えていた、というのは内緒だ。

学生時代はあつという間に過ぎ、就職してからは、遠距離恋愛になった。お互い忙しく、1年にたった4回しか会えなかったけど、不思議と不安はなかった。数少ない会える時間を、ふたりとも大切にしていたと思う。そして、遠距離恋愛になってから約3年半。いつもの通り久しぶ

りのデートで、デイズニーシーに行ったときのことだった。思い切り楽しんで、そろそろ帰ろうとしたとき、彼が帰路とは別の方向へ。「なんだろう？」と思っただけで、到着したのは、なんとヘリクルージング発着所！ 生まれて初めてのヘリコプターと空から見る夜景にとっても感動した。十二分に楽しんだ後、ホ

らハワイで挙式をした話を聞いて、ハワイしかない！と決めていた。雑誌を見ていたときに、他のウェディング会社とは違う、ナチュラルな写真が目飛び込んできた。ファーストウェディングという会社の写真だった。「素敵！わたしもこんな写真を残したい」と、早速訪ねてみることに。話を聞いてみると、何も

知らないわたしでも、具体的に想像がどんな膨らんでいった。こ

んな思い通りに式を挙げられそうと思いき、すぐにお世話になることに決めた。

テルの部屋で花束を持った彼から「結婚しよう」の言葉。まさかこんなことをしてくれるとは想像もしていなかったから、驚くと同時にストレートな言葉に、だんだんと喜びが込みあげてきた。そうして結婚が決まり、式について考えた時、一番に思ったのはアットホームな式を挙げたいということ。友人の多くか

して楽しかった。どこで挙げるかは、来てくれる家族みんな楽しんで欲しかったから家族会議をした。全員一致で、ハワイらしく、海のみえる『パラダイスコープ・クリスタル・チャペル』に決まり、とんとん拍子に進んでいった。ただ、ドレスとブーケは本当に悩んだ。クラシカルなドレスにしたかったのでSさんに相



談したところ、イタリアからのインポートドレスの専門ショップを紹介してくれた。何度も何度も試着を重ね、レース使いが素敵なおドレスに決めた。ブーケも、ドレスに合わせ、白と緑にしようと思っていたところ、「色のあるブーケをおすすめしたい」というSさんの言葉で、色のブーケも見ようになった。悩みに悩んで決めたのはピンク色のチュウリップとカスミソウのブーケ。全員からかわい」と言われ、大正解だった。悩むたびに「納得いくまでゆっくり悩んで決めてください」と優しく声をかけてくれたからこそ、すべて納得のいく選択ができたと思う。

なかなか休みが取れない仕事のため、挙式も弾丸。3泊5日で、式だけのために渡航した。短い中でも一生に一度のことだからとっておきの思い出を残したいと、迷わずフォトグラフアー2名プランにした。そして、ハワイでしか撮影できないような、やわらかい光の入った写真を撮ってほしいとリクエスト。緊張したけど、家族に見守られての挙式やフォトツアーは、ふたりだけの時間とは違いたたかく特別な時間だった。

ハワイから帰ってきてから、お互いの両親が仲良くなり、わたしたちの知らないところで連絡を取り合っているの聞いて嬉しかった。大切な人と濃い時間を共有できるのも、ハワイ挙式だからこそ。出来上がった写真を見たら、とても素敵に撮ってくれていて、お気に入りすぎて撮らないわたしたちの宝物。

お問い合わせ先 [www.first-wedding.net](http://www.first-wedding.net)